ARCUS

Artist In Residence - IBARAKI

現在のアート・芸術文化を守谷から。

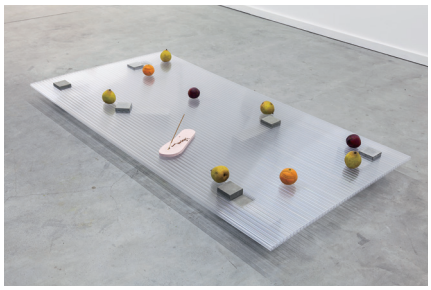
●問合先　アーカススタジオ（もりや学びの里内）
日・月曜日休館　☎46-2600（10:00～18:00）
✉arcus@arcus-project.com
◎詳細な情報はアーカスプロジェクトで検索！

2019年度 招へいアーティスト決定！

アーティスト・イン・レジデンスプログラムで招へいする3人のアーティストが決定しました。公募には、日本を含む89カ国・地域から665件の応募があり、審査には、竹久侑（たけひさゆう）氏（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）と田坂博子（たさかひろこ）氏（東京都写真美術館学芸員）をお招きしました。招へいアーティストは、9月4日㈬～12月12日㈭の100日間、アーカススタジオを拠点に滞在制作に取り組みます。

クリストファー・ボーリガード（イタリア）［彫刻］

労働と余暇の関係に関心を持ち、主にオブジェを用いたインスタレーション作品を制作している。アーカスでは、2020年のオリンピック・パラリンピックによって変化する東京を、同様の経験をしたバルセロナやロンドン、さらに50余年以上前の東京と比較、調査する予定。オリンピックに伴う都市開発と、それがコミュニティへ与えた影響を考察する。



A still-life is just a game of proximity
彫刻、2018、写真：Fabrice Schneider

渡邊拓也（わたなべたくや）（日本）［映像］

調査や聞き取りを通して出会ったある個人の境遇を取り上げながら、逆説的に社会の構造や力を明かすような映像インスタレーションを制作している。アーカスでは、守谷市のとなりの常総市での、日系ブラジル人コミュニティと日本人社会との分断に着目し、調査を経て作品を構築する。2015年夏の関東・東北豪雨について当事者へのインタビューを行う予定。

写真：TU-TIMA

《工員K》映像、21分22秒、2017

ルース・ウォーターズ（イギリス）［映像］

高度にネットワーク化された現代において、過密になるコミュニケーションが現代に生きる人々に及ぼす「不安」に関心を寄せている。アーカスでは、人間のエゴと宇宙開発について調査をする予定。後期資本主義社会において、人類が未だ到達していない領域を切り開いてゆく意思と行動は一体何に支配されているのかという問いに向き合う。

写真：Soohyun Choi

Emotion Over Raisin、映像インスタレーション、2019、写真：Rocio Chacon

個人・団体からの協賛を募集しています

アーカスプロジェクトは、守谷の文化の魅力を高め、芸術を通して市民が互いに学び合うプログラムを実施しています。充実したプログラム運営を続けていくため、皆さんからの協賛を募っています。

協賛金額に合わせてさまざまな特典を用意しています。詳しくは公式サイトスポンサーページをご覧ください。皆さんの温かいご支援をお待ちしています。

例：［個人3000円協賛の特典］
限定ポストカード3枚の贈呈など

サポーター募集中！

アーティストの制作にご協力いただける方をはじめ、「国際交流してみたい」、「アーティストに守谷や日本のことを伝えたい」など、どなたでも大歓迎です。アーカススタジオへ気軽にご連絡ください。